

## ◆地域活動

# ヒトエグサ養殖指導(宮古地区)

宮古農林水産振興センター 吉田聡・上原祐大朗

### 1. 目的

宮古地区では平成19年からヒトエグサ養殖が開始され、平成25年に約3 t程度であった生産量が、翌年には約2倍の6.5 t程度まで伸びている。

また、平成26年7月23日には宮古島漁協ヒトエグサ生産加工部会が設立され、平成27年度からはさらに増産し、10 tを目標としていることから、安定生産できるよう指導を行った。

### 2. 協力

宮古島漁業協同組合

### 3. 方法

定期的に養殖漁場を巡回し、生産者から情報収集するとともに養殖状況と藻体の生育状況を確認し、適宜養殖指導を行った。

### 4. 活動内容

生産者より養殖網の汚れを防ぐ手法について問い合わせがあり、9月24日から2日間、水産海洋技術センター本部駐在にて、リボン採描法について、効果やリボン素材、結節方法について情報収集を行い、実際にリボン採描法を行っている本部町備瀬地先の生産者からも情報収集を行った。

10月1日に生産者を集め、リボン採描法及び北部での取り組み状況、他地区の網洗浄方法について情報提供を行った。

11月以降、養殖網についたヒトエグサの生長が停滞がしたことから、他地区の生産状況等について情報提供を行った。1月以降は藻体の伸び悩みに加え、藻体が成熟したように黄

変し溶ける現象が生じたため、藻体のサンプルを採取し顕微鏡観察を行い、顕微鏡の写真と対策について指導を行った。

### 5. 結果および考察

情報提供後、生産者の一人がジェットウォッシャーの導入とリボン採苗法に試験的に取り組んだ。ジェットウォッシャーについては網を回収して陸上で洗浄するのではなく、網を張ったまま直接洗浄を行うもので、比較的安く購入できることから、養殖初期段階の清掃手段として普及することが期待される。

リボン採苗については、種付が芳しくなく、養殖網にも泥もかぶり、網清掃作業に苦慮していたことから、リボン素材の見直しが必要であると思われる。

また、10月以降の生長停滞については昨年末の海水温の高止まりが影響し、1月の藻体黄変については長雨により陸水流入が多くなり塩分濃度の低下が起こり、養殖網の海水への浸漬時間が長くなったことから、珪藻に覆われ生長阻害が起きたものと考えられる。



水産海洋技術センター本部駐在にて



本部町備瀬地先のヒトエグサ漁場



作成途中のリボン網



生産者との勉強会



ジェットウォッシャーの導入



生産者宅にてリボン採苗網の作製



藻体の黄変



採取した藻体



収穫作業



藻体表面に珪藻が付着



収穫前の養殖網